

[32_2] 図書館情報 : 九州大学附属図書館報 :
32(2)

<https://doi.org/10.15017/1470448>

出版情報 : 図書館情報. 32 (2), pp.9-16, 1996-09-09. Kyushu University Library
バージョン :
権利関係 :



九州大学附属図書館報

図書館情報

The Kyushu University Library Bulletin

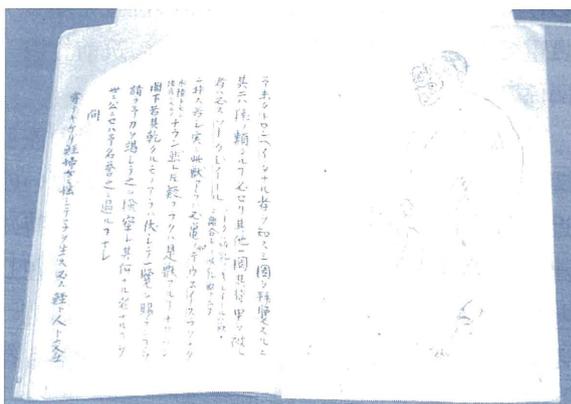
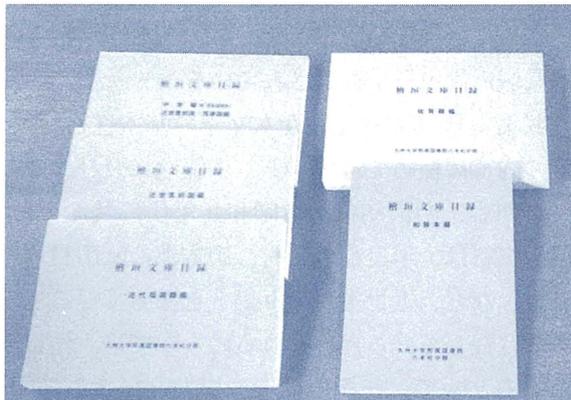
Vol. 32, No. 2 (1996)

目 次

- ・ 檜垣文庫古文書・和装本目録の刊行…………… 9
- ・ 附属図書館で公開事業を実施…………… 11
- ・ 平成8年度NACSIS-IR地域講習会を開催…………… 11
- ・ 図書系職員研修会を開催…………… 12
- ・ 中央図書館貴重図書等の説明会を開催…………… 12
- ・ こんなこと知っていますか？（その1）…………… 13
- ・ 図書系職員初任者研修を開催…………… 14
- ・ 平成7年度利用統計…………… 14
- ・ CD-ROMサーバ操作説明会を開催…………… 15
- ・ 自著紹介…………… 16
- ・ 「図書館情報」をホームページから発信…………… 16

檜垣文庫古文書・和装本目録の刊行

吉田昌彦（九州大学大学院比較社会文化研究科・檜垣文庫対策委員会委員長）



本文庫は、長く本学旧教養部において国史学を担当された故檜垣元吉名誉教授の遺蔵資料の寄贈を受けて教養部分館に設けられたもので、その内容は、洋装本は言うに及ばず美術資料・考古資料・民俗資料から古文書・和漢籍など広範に及びその数も歴大である。

昭和63年以来、関係部局のみならず本学内外のご尽力を得て整理登録作業を進めてきたが、洋装本については、ほとんどの整理作業を終え、古文書・和漢籍も整理・登録作業を終え、古文書・和漢籍について、本年3月、『檜垣文庫目録 中世編（除 肥前国関係）近世豊前国・筑後国編』、『同 近世筑前国編』、『同 近代福岡縣編』、『同 佐賀縣編』、『同 和装本編』の5冊が刊行された。各冊により、厚薄の差があるものの、総ページ数は、1,500ページを越えている。

その概略を示すと、以下のとおりである。

まず、『檜垣文庫目録 中世編（除 肥前国関係）近世豊前国・筑後国編』についてである。

檜垣文庫には、肥前国関係を除いて、46点の中世文書が残されており、大友氏を中心とした北部九州の動

向に関連したものなど、結果としての一定の傾向性・地域性は窺えるようである。

次に、近世豊前国・筑後国関係史料についてであるが、具体的には、小倉藩（細川中津藩・香春藩）・久留米藩・松崎藩・柳河藩関係史料である。

まず、小倉藩（細川中津藩・香春藩）に関してであるが、細川小倉藩関係史料（含中津時代）は28点を数えるが、その過半は、豊前入国時に、前領主であり旧毛利勝信領を管理していた黒田長政との間の年貢引き渡し関係史料であるが、当時の豊前国の状態や確立期藩政の一端を知ることができよう。また、慶長18年の「御代官衆と百姓あいさつ之覚」などには「t a d a u o g u i」という細川忠興の朱印が押されており興味深いものといえよう。

小倉藩（香春藩）関係の史料は41点存在するが、注目されるのは、第2次長州戦争関係史料を初めとする幕末期の史料群である。また、「企救郡砂原村水帳」や企救郡下の数か村の水利関係の庄屋文書など、在方文書も見いだせる。

次に久留米藩についてであるが、久留米藩関係史料は2,120点に上るが、その最大のグループを形成しているのは、山本郡飯田村関係史料であろう。土地、年貢、戸口宗門、夫役関係史料をも一定度備え、その上、寺社、キリシタン、用水、商業、交通、普請、商品作物、農村工業、生活、お救い、差別、農兵など、村のあらゆる面を語る史料が残されている。このような史料群は、飯田村のほかにも、同じく山本郡勿体島村、生葉郡屋形村など、規模は小さくなるものの、複数存在している。

また、藩庁関係史料としては、正徳3年「久留米御条目御事目」、天保元年～弘化5年「被仰出書」などをはじめとする諸史料が残されている。

柳河藩関係であるが、93点所蔵されている。

次に、『同 近世筑前国編』についてであるが、近世筑前国には、名島藩、福岡藩、秋月藩、東蓮寺藩（直方藩）のほか、怡土郡の一部には唐津藩の唐津を中心とした一円支配領のほか、中津藩、対馬藩の飛地及び幕府領が存在した。

存在期間が短かった名島藩関係史料は当然のことながら、極めて少ないが、文禄5年7月13日の早良郡関係の山口玄蕃頭（正弘）の制札や慶長年間の小早川秀秋制札など、その支配の実態を示すものがあ

り、北九州における近世国家確立過程の一端を示すものとして貴重である。

福岡藩は、上述のように、黒田長政の福岡築城を契機として成立し、そのまま廃藩置県まで継続しているが、関係史料の本文庫所蔵数は、3,331件であるが、その内容は、藩政文書と在方文書との大別されるが、後者の方が比重は大きい。このほか、分限帳や黒田騒動関係の「開国直政録」、「寛永以後御令条」などの法令集、慶長から文化までの財政を示した「秘書」、明和期の財政緊縮状況に関する「覚」、春免の起源を書いた「春免或問」などがある。また、在方文書であるが、早良郡金武村・四箇村、同姪浜村、宗像郡勝浦村、遠賀郡修多羅村などが史料数の多いところである。秋月藩は、藩庁関係史料としては、「長興公御代之記」などの家記類、元文年間、文化年間の分限帳、島原の乱関係史料、文化8年の政変関係の「御隣国命令并承書」などが、在方文書としては、畝引帳や大庄屋関係史料のほか、永代売渡証文が散見され、東蓮寺藩は、立藩当時のものであろう先納年貢の受け渡し史料や分限帳もあり、本藩関係史料の残存数が少ないだけに貴重であろう。最後に怡土郡内の諸藩領、幕府領に関してであるが、総数で14点に止まる。

さらに、『同 近代福岡縣編』では、3,471件の福岡県近代史料が掲載されている。

収集史料であるという本文庫の基本性格のため、その内容は極めて雑多であり広範囲に及び、その作成時期も、明治初年から昭和40年代に及んでいる。農村史料は、早良郡の諸村、山本郡の飯田村（善導寺村）など、近世史料とセットとなっているものが多数存在しているが、それらのなかで最も注目されるものとして、一揆の構造や権力と民衆との関係、わけても一揆における被差別部落の位置を知る上で貴重であると考えられる早良郡諸村の筑前竹槍一揆関係の史料群が挙げられよう。

『同 佐賀縣編』は、中世から近代までの佐賀県関係史料を対象としているが、最も史料が厚いのは近世関係である。佐賀藩関係の史料が多く、特に藤津郡伊福村などの農村史料がかなりの量、存在しており、在方史料が乏しいといわれる佐賀藩研究のうえで貴重な史料群といえよう。また、唐津藩も存在しており、郡方支配記録が興味深い。

最後に『同 和装本編』についてであるが、掲載の対象とした和装本の数は、2,300冊に上り、檜垣名誉教授の多彩な問題関心を反映して、その内容も、近世・近代の文学・儒教仏教関係典籍・史書・記録・医学書・教科書など多岐に亘っている。

近世の和装本の内容をしてみると、『笈の小文』『海国兵談』『華夷通商考』『華英通語』といった著名なものも含まれているが、曲亭馬琴、鶴峯戊申・

八功舎徳水らの読本などの当時の「大衆文学」、さらには「画本」、今日の情報誌ともいべき『安政見聞誌』・『伊勢参宮名所図会』などが多く収蔵されている。また、『絵本彦山靈験記』『貝原先生年譜』など九州地域に根差した著作が多いのも特色のひとつである。特に、九州俳壇関係資料の豊かさには見るべきものがある。

附属図書館で公開事業を実施

附属図書館では11月に「幕末・明治期日本古写真等資料展—忘れられた日本の風景、風俗—」と題する公開事業を実施することになりました。これは、国立大学図書館協議会が全国を巡回して実施する「平成8年度国立大学図書館公開事業」の一会場として当館でも開催することとしたものです。

国立大学附属図書館では、貴重書など多数の文化財を所蔵しています。これらの貴重書などは従来から所蔵する大学において展示会などを開催して公開してきました。国立大学図書館協議会では、大学図書館の地域公開にさらに寄与するとともに大学図書館の大学内外での理解を深めるため、各大学で開催する展示会などを可能なかぎり各地区を巡回して公開することとしたものです。

今年度公開展示する幕末・明治期日本の古写真は、長崎大学附属図書館が所蔵するもので、幕末から明治にかけて、我が国で撮影されたオリジナル写真のコレクション約100点です。被写体の主なものは、東京、横浜、京都、奈良、神戸、長崎などの都市の風景、名所、建造物、人物、風俗です。九州大学のほか北海道大学、福島大学、筑波大学、長崎大学の各附属図書館及び国立磐梯青年の家を巡回して展示されます。

当館では、この展示に併せて九州大学石炭研究資料センターの協力を得て、「よみがえる福岡の炭坑」と題して、福岡県内の主に明治期における炭坑の風景、生活の様子などの写真、炭鋳札、地図などを展示することとしています。また、この併設展示に関連する講演会も開催します。

公開事業の概要は次のとおりです。

公開展示

- | | |
|-------|---|
| 巡回展示： | 幕末・明治期日本古写真等資料展—忘れられた日本の風景、風俗— |
| 併設展示： | よみがえる福岡の炭坑—明治期の写真・炭鋳札・地図展— |
| 電子展示： | 巡回展示及び併設展示をインターネットで公開するとともに、会場にも端末を設置して公開します。 |
| 日 時： | 平成8年11月20日(水)～11月26日(火)
午前10時～午後4時30分 |
| 場 所： | 附属図書館自由閲覧室及びホール
(2階) |

講演会

- | | |
|--------|------------------------|
| テ ー マ： | 幕末・明治期の炭坑 (仮題) |
| 講 師： | 九州大学石炭研究資料センター長 東定宣昌教授 |
| 日 時： | 平成8年11月21日(木) 午後2時から |
| 場 所： | 附属図書館視聴覚ホール (4階) |

【平成8年度NACSIS-IR地域講習会を開催】

附属図書館では学術情報センターとの共催で、7月25日から26日までの2日間、九州大学情報処理教育センターにおいて標記の講習会を開催しました。この講習会は学術情報センターのオンライン情報検索システム(NACSIS-IR)の知識・技術を習得することを目的として実施されるもので、九州大学附属図書館での開催は

今回で3回目です。講師は、学術情報センター事業部データベース課文献データベース係の鳴邦宏係員、及び学内の講師2名・講師補助者2名が指導にあたりました。受講者は、九州大学から8名、西日本地区の他大学から12名、合計20名でした。

(情報サービス課)

図書館系職員研修会を開催

— 「大学図書館の電子化にむけて」 — 図書館情報大学 松村多美子教授

6月25日（火）、文学部非常勤講師の図書館情報大学松村多美子教授による講演会を開催しました。参加者は本学職員のほか福岡県内の国公私立大学から十数名の参加があり50名余りでした。

講演内容は7月に予定されている学術審議会の「大学図書館における電子図書館的機能の充実・強化について」の建議に関して行われました。今回の建議は従来の報告・答申ではなく、「建議」として位置づけられたことに大きな意義があります。このことは、今後の大学図書館の電子化の意義が大きいことを示しており、また、それに対する責任も大きいといえます。

以下に講演内容の一部を報告します。

平成4年の学術審議会答申「21世紀を展望した学術研究の総合的推進方策について」において、学術研究基盤整備の重要項目の一つとして、学術研究情報流通体制の整備が取り上げられ、大学図書館の機能強化が指摘された。

その後、図書館を取り巻く状況は急激な変化を来している。情報技術の進歩・大学の改革・生涯学習のさらなる推進、また、海外を中心として、電子図書館の具体的なプロジェクトが展開し、かなりの成果を上げてきている。さらには、G7においても電子図書館プロジェクトが優先的に取り上げられており、我が国も対応を迫られている。

これからは、すべての大学がその特性に合わせて電子図書館的機能を持つべきであり、それには

下記の事項に留意して進めることが重要である。

1) ビジョンの策定

大学の規模、理念等を踏まえ適切なビジョンを策定する。

中・長期のビジョンに基づき段階的、継続的に行う。

2) 学内組織や関連組織との連携強化

情報の収集機能、発信機能においても、全学的な連携が重要である。

3) 大学図書館間の連携をさらに強化

相互運用の確保、資料電子化の方式・作業の分担調整を行う。

4) 教育支援機能

教育的資料、教育資源との有機的結合を図る。

5) 著作権問題、セキュリティの確保、プライバシーの保護等避けがたい課題に十分な配慮をする。

引き続き、具体的な電子図書館の整備の仕方に関して、

①資料の電子化の推進、②電子化の方式の標準化、③研究開発の支援、④施設・設備の整備、⑤組織体制の整備、⑥図書館職員の研修の充実、⑦情報リテラシー教育、⑧著作権などについての講演があり、有意義な研修会となった。

(情報サービス課)

中央図書館貴重図書等の説明会を開催

附属図書館では、6月26日、7月3日、7月8日の3日間、人文・社会科学系部局の大学院生を対象として附属図書館所蔵の貴重図書の説明会を開催した。

今回はじめての企画で、日頃利用できない貴重図書室を案内し、どのような貴重図書を所蔵しているか、貴重図書がどのように保管されているか説明を行った。

重要文化財の指定を受けている『大和物語』をはじめ、『蒙古襲来絵詞』、『百万塔並無垢浄光陀羅尼經』、『伊勢物語』、『都府楼絵巻』等眼前で見学できたことは大学院生にとって今まではなかったことで、新たな研究活動の一翼を提供できたならば今回の企画は効果があったと思われる。参加者は、文学部、比較

社会文化研究科等の大学院生37名の参加があった。

併せて、大型コレクション（学術研究上緊急に必要な人文・社会科学系の一次資料で、学内での予算的措置が困難なものについて文部省から配分される）経費で購入された、昭和53年度のペラ文庫（シャルル・ペラ教授旧蔵書）をはじめ、平成7年度までに購入された22点の紹介と概略説明を行った。

附属図書館保存書庫内に配置されている、主要文庫の『広瀬文庫』、『萩野文庫』等の概略説明を行い、また、マイクロフィルム室に配置されている『九州大学新聞』のマイクロフィルムをはじめ、主要なマイクロフィルム資料の概略説明も同時に行い大学院生の好評を得た。

こんなこと知っていますか？ (その1)

NDCについて

1) 本館の図書資料の分類整理のされ方

九州大学附属図書館の開架図書は、NDC (Nippon Decimal Classification=日本十進分類法) によって分類整理されています。平成8年度より、当館ではNDC改訂9版を使用することになりました。それまで使用していた7版は時代の進歩とともに項目のカテゴリー自身が古くなり、現在の資料にそぐわなくなってきたためです。さらに、今年度を期して図書館システムもリプレース (総入れ替え) となり、UNIXのワークステーションによる、最新鋭のマシンも導入されました。これに伴い、従来の目録整理業務で行なってきた、著者記号の枝番と函架記号も廃止になりました。この措置によって、しばらくは混乱があるかも知れませんが、また、函架記号等がなくなることで、開架及び書庫内資料の、完全に整然とした配架は不可能になりますが、ご理解願いたく思います。

2) NDCとは？

戦前に青年図書館連盟の森清氏が草案し、1929年に「日本十進分類法」初版が誕生しました。以来、版を重ね、現在では、日本全国のほとんどの国公私立図書館で使われており、我が国のデファクトスタンダードな分類表になっています。

分類体系は、まず、知識の全体を九つの類に区分して、1～9の数字を与え、どの類にも属さないものを総記として、これに0を与え、十の類を作ります。以下、同様に数桁の綱目に区分を繰り返して、細分化してゆきます。

- 例) 000 : 総記
 007 : 情報科学
 007.64 : コンピュータ・プログラミング
 100 : 哲学・宗教
 130 : 西洋哲学
 134.2 : カント
 400 : 自然科学
 420 : 物理学
 429.4 : 放射能
 900 : 文学
 910 : 日本文学
 915.36 : 更級日記

3) 函架記号とは

昭和46年から昨年度まで続いていた記号体系では、その資料の配架場所を唯一無二に特定するため、著者記号の枝番と函架記号を付与していました。

289.1	←分類記号
U32-1	←著者記号の枝番
1-1aA	←函架記号

なお、一段目の分類記号、二段目の著者記号、三段目の函架記号をあわせて「請求記号」(Call Number) といいます。

つまり、U32の著者が過去に一人いた場合、同じ著者記号を持つ二人目は、U32-1となります。函架記号は、この例では、U32-1の著者の本で最初に受け入れた資料の2番目の複本を意味します。記号による配架の順序は以下のようになります。

289.1 U32 1	289.1 U32 2	289.1 U32-1 1	289.1 U32-1 1A	289.1 U32-1 1a	289.1 U32-1 1aA
-------------------	-------------------	---------------------	----------------------	----------------------	-----------------------

(複本) (2版) (2版の複本)

4) 旧分類とは？

通称「旧分類」といっていますが、本館の図書資料は昭和45年まで独自の分類体系で整理されていました。これは本学のように歴史のある大学の附属図書館に共通する問題でもあるのですが、図書の分類体系を途中で変更する、というのは大変なことで、一度その体系を採用したら、後はなかなか変えられません。独自の体系で整理された蔵書が膨大なストックとしてあるわけですから当然でしょう。

それで時代の流れとしてはNDCが主流となっていたにも関わらず、昭和45年まで、本館はこの「旧分類」を使用していました。それらの資料は現在すべて地下一層の書庫に収められています。



図書系職員初任者研修を開催



図書館関係の業務に携わって2年以内の職員を対象とした研修会が7月16日、17日の両日、中央図書館で開催されました。この研修会は、「初任者に対し、図書館業務に関する基本的知識を習得させることにより、大学の図書館業務をより円滑に遂行し、研究教育支援体制の強化を図る」ことを目的として昨年度から開催されているもので、今回は近隣の国立大学・高専の職員4名を含む19名が参加し、中央図書館の掛長以上の職員による図書館業務についての14の講義を熱心に聴講していました。受講者へのアンケートによると、非常に有益な研修であったようで、今後は、各職場での研修成果の活用が期待されます。

(情報管理課)

【平成7年度利用統計】

	中央図書館 (理農を含む)	医学分館	六本松分館	合計
入館者数 (学外者：内数)	299,357 (4,848)	160,887 (2,093)	191,054 (1,390)	651,298 (8,331)
館外貸出冊数	55,990	25,486	34,606	116,082
内訳				
教職員	5,323	11,461	16,469	33,253
学生・院生等	49,592	14,025	18,137	81,754
学外者	1,075	0	0	1,075
レファレンス件数	10,691	6,589	5,287	22,567
内訳				
教職員	1,921	3,294	1,057	6,272
学生・院生等	5,627	1,978	3,966	11,571
学外者	3,143	1,317	264	4,724
内訳				
所在調査	6,390	2,833	1,673	10,896
事項調査	263	3,162	61	3,486
利用指導・その他	4,038	594	3,553	8,185
オンライン情報検索サービス件数	245	462	—	707
内訳				
DIALOG	147	5	—	152
JOIS	93	453	—	546
NACSIS-IR	5	4	—	9
CD-ROM,FD情報検索件数	1,323	39,876	42	41,241
文献複写サービス件数	72,337	85,906	5,149	163,392
内訳				
学内者の複写件数	56,472	43,928	4,860	105,260
学外からの受付件数	12,331	25,260	—	37,591
国内	12,331	14,491	—	26,822
国外	0	10,769	—	10,769
学外への依頼件数	3,534	16,718	289	20,541
国内	3,517	16,676	281	20,474
国外	17	42	8	67
図書・雑誌の相互貸借件数	1,045	37	104	1,186
内訳				
他機関への貸出件数	688	5	—	693
他機関からの借用件数	357	32	104	493
国内	357	32	104	493
国外	0	0	0	0

【CD-ROMサーバ操作説明会を開催】

中央図書館では、K I T Eを利用したCD-ROMサーバシステムによるデータベース検索のサービスを始めました。7月2日～3日にはメーカーの担当者による操作説明会を計4回開催し、参加者は50名でした。(内訳：教官12名、院生11名、学生2名、職員25名)引き続き、毎週木曜日15:00-16:00に説明会を予定しています

ので、希望者は参考調査掛に申し込んで下さい。

(内線：2336、8256)

また、CD-ROMサーバへの接続方法等の操作について不明な点がありましたら、参考調査掛に問い合わせして下さい。

なお、「図書館情報Vol.32, No.1」及び「大学広報No.857」で案内しておりますのでそちらも見てください。

本学関係者著作寄贈図書

蔵書の充実を図るため、図書館では著作物刊行の節は一部ご寄贈くださるようお願いしております。今回は次の教官からご寄贈いただきました。厚く御礼申し上げます。

<中央図書館>

井上由扶 (名誉教授：農学部)

木登り人生 (人生の卒業論文)

井上由扶著 (非売品) 1996

秋吉勝廣 (名誉教授：言語文化部)

戴望舒 (ダイワンシュー) 詩集：現代中国の詩人

戴望舒著 秋吉久紀夫訳編

土曜美術社出版販売 1996

徳永幹雄 (健康科学センター教授)

ベストプレイへのメンタルトレーニング

徳永幹雄著 大修館書店 1996

(六本松分館へも寄贈)

<医学分館>

仁保喜之 (医学部教授)

An approach to diseases

-immunology, hematology, cancer-

editor, Yoshiyuki Niho

Kyushu University Press, 1996

服部保幸 (遺伝情報実験施設教授)

遺伝子を理解する

松田一郎、服部保幸著 三輪書房 1995

<農学部>

松尾英輔 (農学部教授)

Horticulture in human life, culture, and environment. eds-in chief E. Matsuo, P.D. Relf.

XXIVth International Horticultural Congress, 21-27

August 1994. (Acta Horticulturae, No.391 Mar. 1995)

◆ 人事異動 (平成8年5月～7月)

(医学分館)

4.30 吉田 幸子 退職 (参考調査掛)

5.1 中野 佳子 参考調査掛 (新規採用)

(総合理工学研究科等)

7.1 鬼田 亜紀 図書掛 (新規採用)

◆ 図書館日誌 (平成8年5月～7月)

5.8 第37回貴重分物展観 8～10

5.10 公開公演会「伊勢物語」

5.13 国立大学図書館協議会と学術情報センターとの業務連絡会
(学術情報センター)

5.14 全学図書系掛長会議

5.16 平成8年度福岡県・佐賀県大学図書館協議会総会
(九州芸術工科大学)

5.21 日本医学図書館協会総会 21～22

5.21 図書館情報編集委員会

5.28 平成8年度国立大学附属図書館事務部課長会議
(東京医科歯科大学)

5.29 国立大学図書館協議会常務理事会 (平成7年度第1回)

5.30 国立大学図書館協議会理事会 (平成7年度第4回)

5.30 CD-ROMサーバシステム運用検討会

6.3 環境美化作業

6.4 全学図書系掛長会議

6.4 図書館資料分類法の統一に関する検討会議

6.20 CD-ROMサーバシステム運用検討会

6.20 目録システム検討会議

6.25 図書館職員研修会

6.26 中央図書館貴重図書等の説明会

7.1 外国雑誌センター館会議 (東京工業大学)

7.2 メーカー担当者によるCD-ROMサーバ操作説明会 2～3

7.3 中央図書館貴重図書等の説明会

7.3 第43回 (平成8年度) 国立大学図書館協議会総会等 3～4
(横浜国立大学)

7.9 図書館資料分類法の統一に関する検討会議

7.9 全学図書系掛長会議

7.12 新キャンパス計画委員会情報・図書ワーキング・グループ会議

7.12 図書館情報編集委員会

7.15 平成8年度大学図書館職員長期研修 15～8.2

(図書館情報大学他)

7.16 平成8年度九州大学図書系職員初任者研修 16～17

(中央図書館)

7.18 第7回九州地区医学図書館職員セミナー 18～19

(福岡歯科大学)

7.20 九州地区国立大学図書館ソフトボール大会 20～21 (宮崎大学)

7.25 NACSIS-IR地域講習会 25～26 (九州大学)

《 自 著 紹 介 》

〔木登り人生（人生の卒業論文）〕

井上由扶（名誉教授：農学部）

約半世紀にわたる森林の教育研究の履歴を中心として、激動期を乗り切った私の生きざまをそのまま書き残したのが本書である。その波乱万丈の人生を乗り切った最大の武器が、幼い頃に習得した木登りであった。本書に「木登り人生」と名付けた由縁である。

この回顧録には、生い立ちも含めて、木登りで林学の道に辿りつき、森林に学びながら教育研究を続けてきた、いわば表通りの人生記録のほかに、九州大学における学園紛争、中央図書館建設問題、春日原キャンパス移転問題等、引き続き宮崎大学の学長就任や宮崎学園都市へのキャンパス移転問題等の両大学運営上の諸問題に対処したときの、いわば裏通りの人生記録も含まれている。

故あって「人生の卒業論文」と副題を付けた。それに拘ったわけではないが、要所に当時の文献等を付記した。関心を持たれる諸氏に参考になれば幸いである。

〔An approach to diseases〕

“- immunology, hematology, cancer -”

仁保喜之（医学部教授）

この英文の書籍は、平成7年11月に開かれた福岡国際医学シンポジウムの講演内容をまとめたものである。このシンポジウムは、福岡市天神のアクロス福岡という新装の会場にて、An approach to disease-immunology, hematology, cancerというテーマのもとに開かれた。

カナダ・オンタリオ癌研のTak Mak教授やアメリカNIHのEpstein教授をはじめとして、いずれも最先端の講演が続き、その方面の研究者に

とって極めて刺激的であった。学生を含む若い医学徒の出席が多く、各演説のあとに英語で行う討論も充実し、時間が不足するぐらいであった。

会場に来れなかった研究者達に広く役に立たいという目的で、短時日で上梓の運びとなったこの冊子は分子遺伝学レベルの最新の知見が盛り込まれており医生物学の研究者達に寄与できれば、幸いである。

シンポジウムの開催、及び書籍の出版は「九州大学第一内科学講座開講90周年記念事業基金」によるものであることを付記し謝辞に代えたい。

〔ベストプレイへのメンタルトレーニング〕

徳永幹雄（健康科学センター教授）

スポーツ選手が試合で実力発揮するには、技術・体力だけでなく、メンタル面の能力（心理的競技能力）が不可欠であります。

本書では、ベストプレイを発揮するにはどのような心理的競技能力が必要で、その診断法や高め方について、その手順や方法などを具体的に紹介しました。また、メンタルトレーニングを行うことによって、競技への意欲が高まり、ベストプレイや実力発揮ができ、勝利につながることを期待して執筆しました。

ただ、メンタルトレーニングをしたからといって、試合で勝ったり、練習でできないことが試合でできるようにはなりません。

メンタルトレーニングの目的は練習でできることを試合で発揮できる「確率」を高め、その確率を「安定」させるために行うものです。幸いにも、メンタル面は年齢に関係なく、何才になってもトレーニングすれば伸びます。あなたのベストプレイを発揮するために、是非、一読して見ませんか。

「図書館情報」をホームページから発信

「図書館情報」が Vol.32, No.1. (1996) よりインターネットの九州大学附属図書館ホームページ (<http://www.lib.kyushu-u.ac.jp/index-j.html>) から見れるようになりましたのでご利用下さい。